

2020 年度学生図書委員会 第 1 回活動「私のおススメ本」

「燃えよ剣」著：司馬遼太郎

江戸時代末期に活躍した新選組の副長土方歳三を主人公に、新選組の成り立ちから終焉までを描く作品。新選組を追うことで、幕末動乱の日本の情勢や欧米列強との繋がり、時代の変化を読むことができる。史実に則った時代フィクション。何かに熱くなりたい人、確固たる信念を持っている人なら、副長土方歳三の生き方に憧れ、共感するはず。【国際 4_ともか】

「正しいパンツのたたみ方」著：南野忠晴

皆さんは家庭科の授業で何をしたのか思い出せますか？どんな人にも一度読むと家庭科を学ぶということを考えたくなくなります。なぜ、この本がこの題名なのかその本当の理由にも気づきます。そして、自分の生活や生き方をを見直すきっかけになると思います。ぜひ、日々の生活と照らし合わせながら読んでみてください。【家政 3_小河原さん】

「世界から猫が消えたなら」著：川村元気

著者は川村元気さんで 2013 年本屋大賞にノミネートされました。この本は、病院で医師に 1 週間の余命宣告を受けた主人公の「僕」が悪魔と契約を結びます。その契約とは「この世界から 1 つだけ何かを消す代わりに寿命を 1 日伸ばすことができる」というものでした。失って初めてそのものの大きさに気づき「何が大切なのか」を教えてください。また、自分自身を見つめ直す良いきっかけになると思います。読みやすい本ですが、非常に奥深い話です。【文芸 3_おーたん】

「ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた」

著：一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同

ジェンダーに関わる問題や動きがより注目されるようになった今、大学生の視点から向き合える本。「男女平等をめざす世の中での女子校の意義ってなに？」という問いなど、私たちの身近なテーマで綴られていたり、ひとつの問いに対して三段階で内容が構成されているのでジェンダーの知識がないという人でも気軽に読むことができるのがおすすめのポイント！気になったトピックを読むだけでもいい。ジェンダーを考えるはじめての一步になる本です。【文芸 3_なえ】

「奇跡の時代」著：カレン・トンプソン・ウォーカー

地球の自転が遅くなっていく世界で、だんだんと世界が変わっていくなか、カルフォルニアに住む主人公にとって重要なのは友達や両親との関係や初恋について。世界が終わりに向かっていく日々が少女の視点で描かれているので、実際には体験したことないことなのに妙にリアルで読みやすい作品になっている。私たちの生活が変化している今、読んでみると共感できるところがあるのではないだろうか。【文芸 3_はしもと】

「嵐が丘」著：E・ブロンテ

エミリーブロンテの嵐が丘を選書した。全く共感できなかつたが主人公の狂気に圧倒され面白かつた。恋愛要素、復讐もののドロドロした部分、さらに2つの時代が交錯するため大河や時代物要素まであり読みごたえがあるためお勧めしたい。ストーリーテラーの役割を担うのが女中のように陰で使えるキャラクターである点などイギリスらしい作風であると思う。作者が女性であることから女子大に通う学生として挑戦してみしてほしい。【国際3_ありあ】

「3日で変わるディズニー流の育て方」著：櫻井恵里子

働くうえで大切なことはなにか、リーダーに求められることとは何であるのかということを知ってほしい。一冊です。消費者のニーズに応えるためには自らが商品を使用し熟知する必要があるということが勉強になりました。また、従業員の行動を見守ることでその人自身が考え、能動的に行動することが可能となるということを知ってほしいです。【国際3_つちこ】

「赤毛のアン」著：モンゴメリ

アンは日常の中で、素敵だと思った風景や行動に名前を付けていて、毎日楽しそうに過ごしているのが好きです。新型コロナウイルス感染症が拡大している中で、アンのように日常の細かいことにも気づき、楽しめたら、心がすり減ることが少なく過ごせるのかなと思ったのでおすすめしました。小説の中でアンも成長していくのですが、読み手の私も一緒に成長できている気がするところもお気に入りです。【家政2_すい】

「レインツリーの国」著：有川浩

ただの恋愛小説という訳ではなく、障害がある人の思い、辛さ、不器用ながらの恋が描かれていて、キュンキュンするけど考えさせられる物語です。出会いがブログという新しい出会い方も今っぽくて、そこから始まるやりとりも読んでいて面白いのでぜひ読んでみてください。【家政2_メグ】

「流星の絆」著：東野圭吾

私がお勧めする本は東野圭吾さんの「流星の絆」です。この本は私が小学生の頃から読んでいたのですが、とても面白くお気に入りの一冊です。小さい頃の両親を殺されてしまった兄弟が、大人になって犯人を探して復讐するといった、ミステリー要素のある物語です。しかし途中途中でコメディ要素も入っていて、長居にもかかわらず、飽きずに無ことができるというのがこの本の魅力であると思います。また、最後の犯人が分かるシーンは誰もが予想していなかったであろう展開になり、最初に読んだ時は本当に驚きました。そんなどんでん返しの展開もとても面白い一冊になっています。【文芸2_あみ】

「ミッドナイト・ラン！」著：樋口明雄

小説の文章の中でも十分に伝わってくる世界の臨場感やスケールの大きさがポイントで、主人公たちのそれぞれの境遇や心境の変化に共感できます。ページごとに展開が変わり読みだしたら止まらないジェットコースターのような物語なので飽きずに読むことができますと思います。【文芸2_ゆうか】

「10代からの情報キャッチボール入門使えるメディア・リテラシー」

著：下村健一

“最近、インターネットでの誹謗中傷が改めて見直されています。そのきっかけとなった木村花さんのニュースは皆さんの記憶に新しいでしょう。私たちは改めてメディア・リテラシーについて考える必要があると思います。そこで私がおすすめするのがこの本です。この本は「子供向け」として書かれていますが、基本的な知識を得るにはとても良い本です。筆者は語りかけるように、易しい文とわかりやすい事例を用いてメディア・リテラシーの基本を解説しています。全体で約150頁ほどで1頁辺りの文字数も少なめなので、気軽に読むことが出来ると思います。改めてSNSやインターネットの使い方について一度考え直してみませんか。【文芸1_Riona】

「横浜駅SF」著：柞刈湯葉

「横浜駅が自己増殖を始めた」という斬新な設定が魅力の1つです。題名の通り「横浜駅」が舞台になっているだけあって、日常生活でよく聞く〈駅の用語〉で成り立っているSF小説です。SFと聞くとちょっと難しい単語が出てきたり、設定が複雑だったり嫌厭しがち……という方でも読みやすいと思います。本州の99%を占める横浜駅内部ではSuikaが脳内に埋め込まれた人間のみが暮らせるエキナカ社会が広がっている。その外側で暮らすヒロトは横浜駅の真相を探るべく、横浜駅への潜入を試みる。駅に支配されたエキナカから無事に帰ることは出来るのか、というハラハラストーリーです。AIや電子機器が多用されて便利な世の中になっていましたが、その脅威についてあなたはどのように思いますか？少しだけ考えさせられるお話です。【文芸1_ユキ】

「もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら」

作者：神田桂一・菊池良

私がこの本をおすすめする最大の点は面白いことにあります。題名を見て「？」が浮かんだ人が多いと思います。私もその一人です。では、この本は一体どういったものなのでしょう。この本は、太宰治やコナン・ドイル、村上春樹など古今東西の文豪、詩人、作詞家など総勢100名の文体をもとに作者がカップ焼きそばの作り方をその人達”風”に書き連ねたものです。例えば、紀貫之”風”に書いたページでは「男もすなるかつぶ焼きそばといふものを、女もしてみむとするなり。」といった冒頭で始まります。このように、読書経験が豊富な方は見知った作家が沢山の有名作品がユニークなものにオマージュされているので楽しいと思います。そして、読書が苦手な人にこそ私は強くおすすめしたいです。文学作品は難しいと思っている方は多いと思います。しかし、こ

の本には名前は聞いたことはある文豪や作品の、楽しいオマージュが沢山載っています。どれも少し笑えて、肩の力を抜いて読むことができます。この本を読んで、気になった作品の原作を読む足掛かりになれば嬉しい限りです。【文芸1_ザッキー】

「medium～霊媒探偵城塚翡翠～」著：相沢沙呼

私がおすすめる本は『medium～霊媒探偵城塚翡翠～』というミステリー小説です。この本は本屋大賞2020にノミネートされました。さらに、「このミス」「本ミス」「ベストブック」で一位を獲得しているほど熱い本です。あらすじとしては、推理作家で難事件を実際に解決してきた香月史郎はある日、城塚翡翠と出会う。翡翠は霊媒で死者の言葉を伝えることができる。しかし、その霊媒は条件があり断片的にしかわからないし証拠能力もない。そんな二人で事件を解決していく。一方で、巷では証拠を一切残さない連続殺人鬼が人々を脅かしていた。ついに、殺人鬼の目は翡翠に向けられていく。一文も重くなく、読みやすい本です。最後の方は気になって気になって読むスピードが速くなってしまいました。読み終わるとスッキリしますし、人に紹介したくなるようなそんな本です！皆さんもぜひ読んでみてください。【ビジネス1_はるな】

「空飛ぶタイヤ」著：池井戸潤

映画化すると聞いて初めて自分のお金で買った小説です。主人公が経営する運送会社のトラックのタイヤ脱落事故が起き、その一つの出来事で会社の信用が失ってしまったり、トラックを売った自動車会社に対して疑心暗鬼になったり、銀行からの融資が止まったり、週刊誌が追ってきたり、それらの家族にも影響が出てしまうことにびっくりしました。ブックトークの準備として久々にもう一度読み返したのですが、ビジネス学部で学んでいる身として、小説ではありますが改めてとても勉強になりました。また、リアルな企業社会だったり、中小企業の底力だったり、負のスパイラルからの大逆転劇という池井戸作品の特徴に惹かれ、普段本を読む習慣のない私にとって、池井戸潤さんの他の作品にも興味を持つきっかけになりました。【ビジネス1_まるちゃん】

「贖罪」著：湊かなえ

小6の頃に読んであまりに衝撃的だった本の一冊です。15年間前事件に関わった少女たち側の現在の話。一人一人事件後背負わされ、ただただ大人に巻き込まれた少女達が可哀想。ただ読み終わればその背負わせた側も責められない。意味が分かればわかる歳になるほどイヤミスを感じることが出来る作品で内容としてはずっと暗いのに何故か読み進めてしまうし表紙が目に入ったらその意味を思い出した読み出してしまおう、そんなお話です。【文科1_あやね】

「うさぎパン」著：瀧羽麻子

私の選書本『うさぎパン』は読みやすく甘酸っぱい青春があったり、心温まる内容でもあるためおすすめです。【文科1_まゆ】

「体操詩集」著：村野四郎

私がおすすめる本は村野四郎の体操詩集です。「体操」がテーマの詩集で、棒高跳びや槍投げなどの競技の詩が収録されています。体操と聞くと健全で爽やかな印象が強いと思います。ですが、この詩集の詩からは健全さの中にある色気を感じ取ることができます。昭和に発行されたものですが、今読んででも新鮮な感情を抱ける詩集なのでおすすめます。【文科1_あやか】

「カラマーゾフの兄弟」著：ドストエフスキー

この本は、作者が亡くなる80日前に発表した作品で未完となっています。ただのミステリーではなく、家族や愛欲の葛藤を描いたり神の存在、や善悪の人間の二面性など様々な問題追究した小説です。新しい価値観に出会えるのでお勧めです。【文科1_ナギ】

「幻庵」著：百田尚樹

私のおすすめ本は「幻庵」です。この本の著者は百田尚樹さんで、永遠のゼロの著者でもあります。この本は江戸時代の囲碁棋士たちの話で、中でも幻庵という人の人生に焦点が当てられています。ちなみに本名、井上 幻庵因碩（いのうえ げんなんいんせき）という名前で実在していた人です。ぱっと見、表紙のイラストや書籍名、囲碁の話ということから内容が難しいのかな、と思いがちですが、そんなことはありません。ある囲碁の棋士のおじいさんと後に「鬼」因徹とも幻庵とも呼ばれることになる童子との出会いから始まり、ライバルとの出会い、突然の別れ、新たな出会いを通して、さまざまな人と囲碁を打ち合い、ライバルと伝説の碁を作り上げていく。そんな人生を囲碁にささげた青年たちの戦い、そして涙のある歴史青春小説です。高校生の頃に読んだのですが、続きが気になって授業中に読んでしまうくらい面白い本でした。この「囲碁」というテーマでここまで面白い本を書く百田尚樹さんに感嘆します。【文科1_ほーちゃん】